

## 1. 策定の主旨

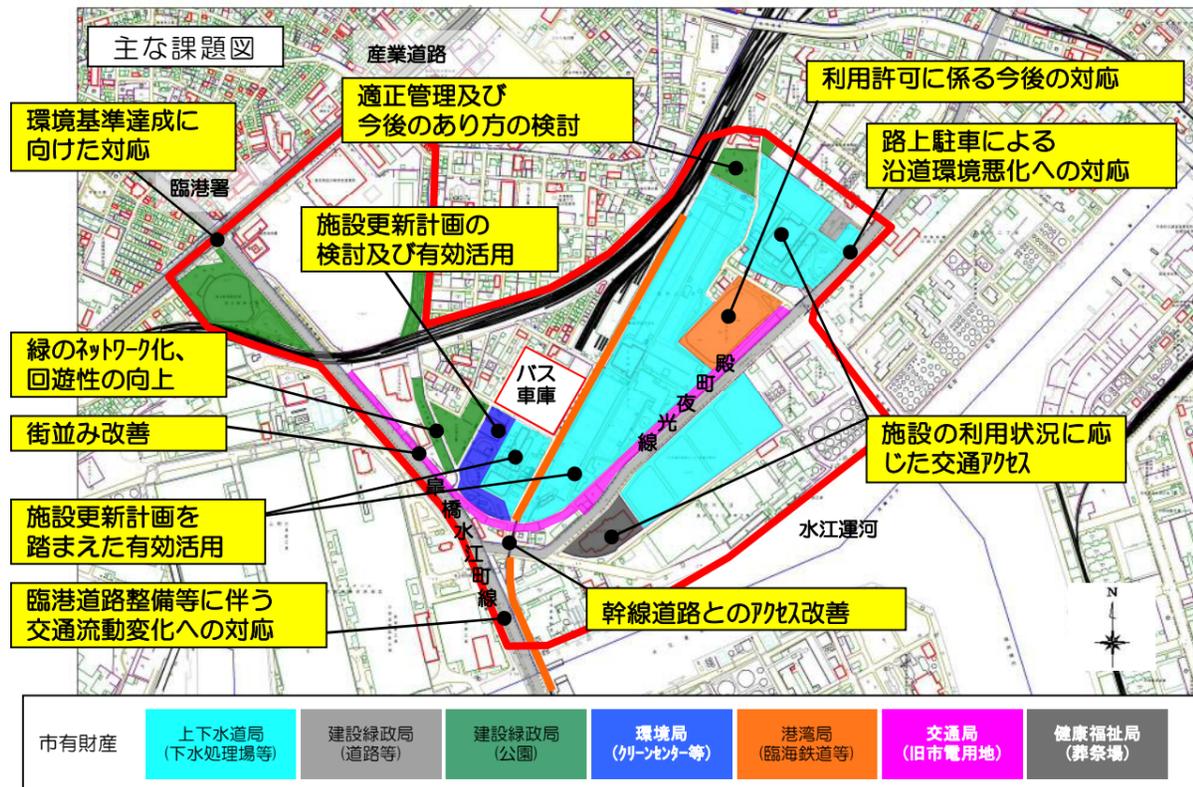
川崎臨海部は、日本経済を牽引してきた我が国を代表する工業地帯であり、高度なものづくり技術とともに、公害を克服してきた過程における世界有数の環境技術をもつ企業が多数立地している。そうした中、塩浜3丁目周辺地区は、大規模な工場のほか下水処理場などの大型公共施設が立地し、臨海部の産業活動とともに市街地の市民生活を支えるうえで重要な役割を担ってきたが、近年は公共施設の老朽化や更なる高度化に対応した更新整備などが進んでいる。今後は従来の役割を維持しながら、更新整備等を契機に臨海部の活性化や持続的発展に資する取組が求められており、上位計画等を踏まえ、当地区の整備の基本的な考え方や方向性を取りまとめた。

## 2. 塩浜3丁目周辺地区の現状

産業道路及びJR東海道貨物支線から水江運河までの約70haの当地区内には、下水処理場を中心とした本市のライフラインを支える重要な公共施設をはじめ、斎場や温水プールなどの市有財産が集積している。その他、大規模工場に加え、中小工場と住宅が共存する街並みが形成されている。一方、大規模な工場の土地利用転換も進んでおり、近年では、物流・商業機能を集約した大型複合施設が立地し、民間バス事業者によるバス営業所の建設も予定されている。

## 3. 塩浜3丁目周辺地区の主な課題

- 1) 地区内道路の改善
  - 幹線道路と地区内道路の接続形態（位置、道路構造）が脆弱
- 2) 市有財産の有効活用
  - 利用されていない市有財産が存在
- 3) 幹線道路の機能強化と沿道環境の改善
  - 川崎臨港警察署前交差点は環境基準非達成
  - 臨港道路整備による交通流動変化
  - 路上駐停車車両による交通阻害
- 4) 街並みの改善
  - 施設の更新や利用状況等による沿道の景観形成
  - 緑のネットワーク化が必要
- 5) 市民利用施設への交通アクセス
  - 殿町夜光線の沿道に立地する温水プールなどの市民が利用する施設の利用状況に応じた交通アクセス



## 4. 整備の基本的な考え方

更新を控えた公共施設が多く集積しているエリアを“機能導入・有効活用推進地区”として、公共施設等の更新整備に合わせて、具体的な取組を進める。

- 1) 臨海部の活性化に資する機能導入
  - 市有財産の有効活用による新たな機能導入
  - 土地利用を支える基盤整備
- 2) 臨海部の産業成長を支える交通機能の強化
  - 臨海部の交通利便性向上に資するバス交通機能の強化
  - ドライバーのレスト機能など臨海部の交通・物流をサポートする機能導入
  - 周辺道路ネットワーク整備の動向を踏まえた幹線道路交通の円滑化や沿道環境の改善
- 3) 安全・安心、快適で魅力ある地区形成
  - 緑化の推進などによる潤いのある地区整備
  - エネルギーや環境技術等の活用による地球環境貢献
  - 災害に強い地区形成
  - 市民が利用する施設を中心とした開かれた地区形成

## 5. 整備の方向性

- 1) 土地利用
  - 公共施設の更新整備等に合わせた市有財産の有効活用
  - ライフインノベーション分野の中心拠点である殿町3丁目地区を支援・補完する機能導入
  - 下水道資源等のエネルギー活用や資源循環を踏まえた環境配慮型施設の導入
  - 臨海部への立地誘導に資する交通ネットワークの構築に向けたバス拠点施設の形成
  - 既成市街地等との共生、市民が利用する施設を中心とした開かれた地区形成
- 2) 基盤整備
  - 公共施設の更新時期を踏まえた土地利用を支える基幹的道路の段階的整備
  - バス拠点施設の進出や基幹的道路整備による臨海部のバス交通機能強化
  - 周辺道路整備動向を踏まえた交通機能強化や沿道環境改善
  - 公園等の公共空間と立地企業による緑の創出などによるアメニティ・回遊性の向上

基本方針図

